

# Japio YEAR BOOK 2017

## 発行にあたって



一般財団法人日本特許情報機構  
理事長

松井 英生

Japio YEAR BOOK は、平成 17 年に創刊して以来、特許情報に関する施策や取組、機械翻訳や特許検索等のテーマを中心に、各界第一線でご活躍の皆様からご寄稿いただくとともに、関連するシステムとサービスの情報を合わせてご紹介する「年誌」として、発行を重ねてまいりました。今年も、特許庁、独立行政法人工業所有権情報・研修館、賛助会員、歴代の財団役員、評議員及び関係各位の皆様のご支援を賜りつつ、Japio YEAR BOOK 2017 を発行することができましたことを、心より厚くお礼申し上げます。

近年、ハードウェア資源の発展とともに、深層学習をはじめとする人工知能技術が目覚ましく飛躍しております。画像処理、機械翻訳、チェス、将棋、囲碁に対して人工知能を適用したときの精度や実力は、各業界関係者のみならず、一般の方にとっても大きな衝撃をもって受け止められたと理解しております。そして昨今、例えば医療や農業、人事などの分野に活用されるなど、人工知能はその裾野を確実に広げております。このような背景のもとで、特許情報分野における人工知能のインパクトを社会に発信するべく、今回の特集記事の主題を「PI × AI (特許情報 × 人工知能)」とし、副題を「第四次産業革命が特許情報の未来をどう変えていくのか」としました。本誌に掲載された記事や情報が、特許情報等のさらなる活用に向け、時代に先んじていくための一助となれば幸いです。

今や特許情報は研究開発戦略のみならず、経営戦略にとっても重要視されています。このように、特許情報への期待が一層高まる中、産業財産権に関する質の高い情報を提供することにより経済・社会の発展に貢献するという当財団の経営理念に立ち返りつつ、皆様のご期待に応えられますよう、職員一同、専門性を磨き最善を尽くす所存であります。今後とも皆様のより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。